

真夏の夜の公道ゼロヨン大会

1990.9. HA

300台400m500人 のナイト・オブ・サンダー

関の東西を問わず、公道ゼロヨンの噂はよく聞くが、その実体に迫るのは難しい。彼らは時を変え、所を変えながら、このイベントを運営するからだ。だが、今回ホリデー取材班は運良くその現場を捉えることができた。

それでは水の都・大阪から、真夏の夜の風物詩をお届けしよう。

写真／鉄谷写真事務所 文／A.M.C

8月4日、土曜日。
11:05 PM

諸般の事情から具体的にどことは言えないが、ここは地元・大阪では有名なゼロヨンスポット。

既にゼロヨン真つ最中。ギャラリィを含めておよそ350名ほどの人間が集まっている。クルマも多種多様。まず、GTRだけで十数台はいるだろうか。その他にZ、ソアラ、スーブラ、RX-7、AE92、シルビア、MR2などといったクルマが目立つところ。ミラや軽バン、オートバイも中に混じっている。

2台ずつ1組になつての、バトルマッチが果てしなく繰り返されている。
11:44 PM

アクシデント発生!

バトル中のオートバイが、ゴールまであと50mほどを残したあたりで転倒。幸いたいた怪我はなかったようだが、それでもドライバは救急車で運ばれていった。

そして、また何事もなかったかのように競演は再開された。

2:00 AM
いつのまにか、ギャラリィの数もクルマの

台数も増えている。総勢500名の人間と300台のクルマが織りなす、さながら真夏の夜の夢。いよいよ佳境か。

スタート地点にはタイヤの焦げる匂いにオイルの匂い、そしてタイヤかす。

スターティンググリッドに2台のクルマが並んだ。GTRと3レメカチューンのS130Zだ。

3:.....2.....1 スタート!!

スタートダッシュで機先を制したのは130Zだった。一瞬の遅れをとったGTRは小さくボディを左右に振ったと思いきや、2速に入ったところでZを捕捉。いったん捉えた後は、トルクスプリット4WDの利を活かしてグイグイ加速、ゴール目指して疾走していった。

「12秒前半はカタイですよ」と、得意満面で語っていたオーナーの顔が目に浮かぶ。

次にグリッドについたのはKカー2台だった。心なしかギャラリィたちの目が和んだようだ。

だが、2人のドライバーの目は真剣そのものの。400m先のゴール地点を見据えてカッとばかりに見開かれている。クルマはどうであれ、彼らもまた10秒ちよつとのエキサイティングなゲームの虜の一人なのだ。

目の前を女のコ2人乗りのシビックが通りかかった。それは以外にも彼女自身のクルマで、マフラーまで交換してあるレッキとしたチューニングカー。大阪は、女のコのゼロヨン好きッコが多いのが特徴だ。

バトルは相変わらず繰り返されている。ポルシェ同士の対決、新型MR2の登場、新車VS旧車、Kカーから大排気量車まで総出演のゼロヨン大会。

東の空がかすかに白んできたころ、睡魔誘われるままに取材班はその場所を後にし、その時もまだ競演は果てるともなく、いつかまた。

